

国指定史跡



角塚

古墳

日本最北 つのづかこふん
岩手県唯一の前方後円墳

所在地
岩手県奥州市胆沢南都田字塚田
連絡先
教育委員会事務局歴史遺産課
岩手県奥州市江刺大通り1番8号
TEL 0197-34-1316

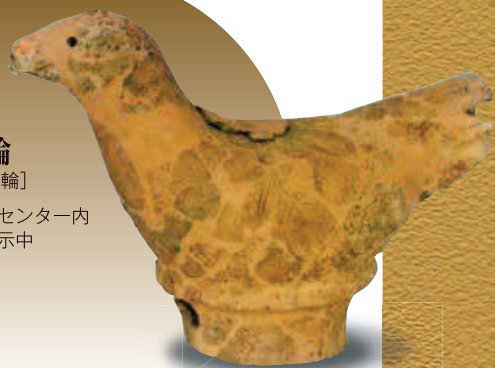
奥州市教育委員会

埴輪

はにわ



円筒埴輪

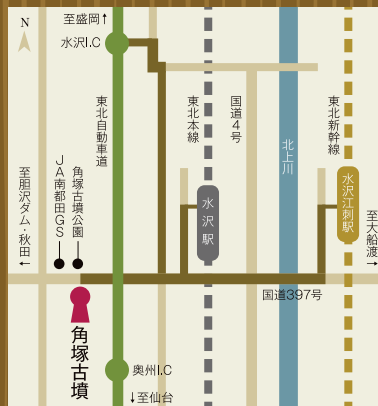


形象埴輪

[ニワトリ形埴輪]

胆沢文化創造センター内
郷土資料館展示中

角塚古墳から見つかった埴輪は、大半が円筒埴輪の破片ですが、そのほかに、朝顔形埴輪、形象埴輪（写真のほかに猪、馬などの動物埴輪、人物埴輪、家形埴輪など）の破片もあることがわかっています。



[J R]

東北新幹線 水沢江刺駅下車
東北本線 水沢駅下車
下車後ともにタクシー利用15分～30分

[バ ス]

岩手県交通 胆沢水沢線
「角塚公園前」下車

[自家用車]

国道397号利用

国道北側の「角塚古墳公園」駐車場を
ご利用下さい。



国指定史跡

角塚古墳は、昭和49～50年の範囲確認調査によって、ほり(周濠)をめぐらし、円筒埴輪と形象埴輪を飾り、葺石を並べた典型的な前方後円墳だとわかりました。作られた年代は5世紀の後半です。

岩手県では唯一、そして日本最北端の前方後円墳として、昭和60年3月に国指定史跡となりました。

現在の状態で全長43m、墳丘の高さ4.3mです。国道397号と農業用水路が古墳の北端を、畦畔が古墳の南端をけずっています。

古墳で行われた儀式は、亡くなった前王の葬送儀礼と新王の即位式だったと考えられています。円筒埴輪の列は墳丘を外部から守る壁であり、形象埴輪は即位式のためのもので、一つ一つの形に意味があったと考えられています。

なお、平成10年7月に開催された「角塚古墳シンポジウム」において、過去の発掘調査で見つかり、正体のわからなかった埴輪の一群が、裸馬を模したものであることがわかりました。

これは、早稲田大学文化財整理室(当時)の井上裕一氏に観察していただいた結果わかったもので、5世紀の第3四半期(450～475年)頃に作られたものであるとの指摘を受けました。

このことから、角塚古墳が作られた年代が一層絞り込まれることとなりました。

古墳と古墳時代

弥生時代の終わり頃、ムラより大きいクニが各地にでき始めます。そして、そのようなクニをまとめて大きいクニを作る動きが激しくなり、そのクニの王は、土を高く盛った大きな墓(古墳)を作るようになります。古墳時代の始まりです。

古墳にはいろいろな形がありますが、最も注目されるのが前方後円墳です。前方後円墳は、そのクニの王が、ヤマトの王権と密接な関係を持っていることを示すものだからです。

古墳-特にも前方後円墳-は、3世紀後半から6世紀まで全国各地で作られており、東北地方でも、4世紀以降に作られた古墳が、福島県、宮城県、山形県でかなりの数見つかっています。ところが、角塚古墳を唯一の例外として、岩手県、秋田県、青森県からは一基も発見されていません。

これはいったい何故なのでしょう。この謎が、角塚古墳が、国指定史跡となった理由でもあります。



角塚古墳の航空写真 [写真の上が北]

角塚古墳は誰の墓か

角塚古墳に埋葬された王が誰なのかは、わかっていません。この胆沢扇状地で誕生した地元出身の王なのか。それとも別の土地からやってきてこの地を支配した王なのか。いずれにしても、この地域に、古墳を作らせるほどの権力者がいたことは確かです。

それを裏付けるように、角塚古墳にほど近い水沢中半入遺跡から、古墳時代の大規模な集落が見つかっています。出土遺物には、大阪府陶器産の須恵器や宮城県産の黒曜石、コハクやガラスのできた玉類、馬の歯など、遠方からの交易を示す品々が大量に含まれています。これらの出土遺物から中半入遺跡は、南北の物流拠点だったのではないかと考えられます。

角塚古墳に埋葬されているのは、このような物資の流通を握って力を蓄えた王だったのかもしれませんが。

最近、古墳の形、埴輪の形や作り方の研究などにより、角塚古墳は宮城県仙台地域と非常に密接な関係があることがわかってきました。

角塚古墳以後

7世紀になると、北上川中流域を始めとする県内各地に集落が増えます。これらの集落は稲作を中心とした集落であると考えられていますが、その一方で、北海道の続縄文文化の影響が認められる遺物も見つかっています。古墳文化を受け入れつつ、北海道の文化とも係わりを持ちながら生活していた様子がうかがえます。この後もなく、文献上に「エミシ」が登場し始めます。

角塚古墳そして胆沢扇状地の古墳時代の謎は、これらのことを念頭に置かないと解けそうもありません。